

第5期さかい男女共同参画プラン（案）についてのご意見の要旨と本市の考え方

	ご意見の要旨	市の考え方
○第1章 計画の策定にあたって		
1	プランの名称が「第5期さかい男女共同参画プラン」だが、SDGsの観点からも「男女」という言葉にとらわれず、誰もが男女共同参画の理念に基づく行動につながるような名称にすることを検討してほしい。	本プランにおける基本姿勢として「SDGsの視点をふまえた取組の推進」を定めています（P.3）。 男女共同参画施策の推進にあたっては、国の「第5次男女共同参画基本計画」及びSDGsの視点を包括的に取り入れ、ジェンダー平等及びジェンダーの視点をすべての施策に反映し、すべての人が性別にかかわらず個性と能力を十分に発揮し、すべての分野に対等なパートナーとして参画できる男女共同参画社会の実現をめざします。
2	プランの名称が「第5期さかい男女共同参画プラン」とあるが、男女のみの分制で考えないでほしい。	
3	プラン（案）では「すべての人」という言葉がたくさんあり素晴らしいとは思いますが、言葉が一人歩きしているような印象を受け、具体的なものが見えてこない。 これまでのさまざまな施策は素晴らしいので、ブレることなく、自信を持って前に進めてほしい。	本プランでは、施策の基本的方向の基本方針3「すべての人にとっての安心な暮らしの実現」と定めており、生活上の困難や社会的困難を抱えている方への支援の方向性や、多様な人が地域で安心して暮らすことができるための施策の方向性を示しています。今後、基本方針に沿ってさまざまな施策を推進していきます。
4	*印が付記されている用語については、参考資料の「用語解説」に記載している旨をP.1に明示すべきである。	ご意見を受けて、目次ページの2ページ目下部にその旨を記載します。
5	P.7に記載されているジェンダーギャップ指数の説明の枠中にジェンダー不平等指数の説明文が入っていることに違和感がある。 日本のジェンダーギャップ指数が156カ国中120位という順位になっているのは、政治分野・経済分野の順位が低いからである。その要素が加味されていないジェンダー不平等指数と対比させて、ジェンダーギャップ指数の説明をしていることは間違っていないか。	本プランでは、各所に男女共同参画に関連のあるマークや用語の解説文を記載しており、ジェンダーギャップ指数の説明もその一つです。 政治分野・経済分野における女性の参画が不十分であるというジェンダーギャップ指数が示す日本の現状については本文中に示しており、本市の現状においても同様であると認識しています。 ジェンダー不平等指数については、国において、ジェンダーギャップ指数と同様に、男女共同参画に関する国際的な指数として公

6	<p>P.7 のジェンダーギャップ指数の説明の箇所において、男女共同参画に関する国際的な指標の1つとしてジェンダー不平等指数を挙げているのは不適切である。</p> <p>ジェンダー平等が実現されていない状況において、政治分野・経済分野における意思決定の場では男性が圧倒的優位であることが最大の課題とされるべきである。</p> <p>ジェンダー不平等指数はその点に重点を置いていないため国際的な指標として使われるべきではない。</p>	<p>表されている現状もふまえ、言及していません。</p> <p>ジェンダーギャップ指数の説明文に記載のある「独自に」という単語については、特別な意味があって使用しているわけではないため、削除します。また、説明文の配置については、①国際社会（世界）の動きの本文の直後に変更します。</p>
7	<p>P.7 ジェンダーギャップ指数の説明文に「独自に」と書いていることにより、国際的な指標として扱われているイメージが湧かず、意図的に記載しているのではないか。ジェンダーギャップ指数の説明文の配置もプラン本文と異なるページに配置されており、浮いた印象を受ける。</p> <p>また、ジェンダーギャップ指数と政治分野の側面が加味されていないジェンダー不平等指数を同レベルで掲載していることが意図的な印象を受ける。</p>	
8	<p>P.10 堺市の現状と課題にある「人口減少と高齢化の進行」、「単独世帯の増加」について、P.17 の課題に反映されていないように思う。「安心した暮らしに向けた対応」に含まれているのかもしれないが、もう少し具体的に示してほしい。</p>	<p>人口減少や高齢化の進行、単独世帯の増加といった人口構造や家族形態の変容により、貧困等の生活上の困難を抱えやすい高齢者が増加しているため、さらなる支援に取り組む必要があります。</p> <p>いただきましたご意見を受けて、P.17 の⑤現状から把握した課題の「■安心した暮らしに向けた対応」の文章を修正します。</p>

	ご意見の要旨	市の考え方
○第2章 旧プラン・計画の取組の成果と課題		
9	<p>P.21 の基本課題として掲げている「男女共同参画による都市魅力の創出」が女性の登用比率についての記述に終始しているように感じる。</p> <p>「男女共同参画社会」という、性別にとられない一人の人として尊重される社会(都市)こそが、都市魅力であってほしいと思う。女性の登用比率は、とても重要な課題であるが、この課題名にはなじまないのではないか？</p>	<p>旧プランである第4期さかい男女共同参画プラン(改定)では、基本課題5「男女共同参画による都市魅力の創出」とし、固定的な性別役割分担意識の解消に努め、さまざまな活動に男女が参画できるような取組、意思決定過程への女性の参画を加速させる取組を推進してきました。特に市の審議会等委員の女性比率は、重点項目に位置づけ、これまでの成果と課題について言及しているところです。</p> <p>新プランである第5期さかい男女共同参画プランでは、第4期さかい男女共同参画プラン(改定)における成果や課題、社会情勢の変化等をふまえたうえで、施策の基本的方向を定めており、女性の登用に関することについては、基本方針1「女性の参画拡大と活躍の推進」で言及しています。</p>
○第3章 施策の基本的方向 基本方針1 女性の参画拡大と活躍の推進		
10	<p>男性議員が多い市議会の男女の比率を平等にしていってほしい。男女比率の平等が進めば、意識も変わると思うし、堺市の先進性をアピールすることができる。</p>	<p>政治分野における男女共同参画の推進については、平成30年に施行された「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」において、地方公共団体に対しても、市民に対する啓発活動や環境整備等に努めることが求められています。</p> <p>引き続き本市におきましても、市民に対し、関心と理解を深めるための取組や意識啓発を図ります。</p>

	ご意見の要旨	市の考え方
○その他		
11	<p>日本産婦人科医会は、経口中絶薬の国内使用が承認された場合、安易に中絶が行われることを懸念しており、経口中絶薬の処方にかかる費用を10万円程度にするのが望ましいとする考えを示している。</p> <p>中絶は女性の心身に負担がかかります。安価だからと言って、好き好んで中絶薬を飲む女性はいないだろう。むしろ、海外と同様に安価で薬局にも取り扱いがあれば、女性が主体的に避妊することができ、日本の男性主体の避妊意識を変えることも可能だと思う。</p> <p>経口中絶薬が高価なものにならないよう、堺市から日本産婦人科医会に意見書を提出してもらえないか。</p> <p>また、経口中絶薬が承認され、高価格に設定されてしまった場合、堺市から助成金が出るようにならないか。</p>	<p>男女がともに生涯を通じた健康を保持し、適切な健康管理を行うためには、身体的性差について十分に理解しあうことが重要です。</p> <p>特に女性は、妊娠や出産をする可能性があり、男性に比べるとライフステージごとの変化が大きいことから、男性とは異なる健康上の問題に直面します。女性の生涯を通じた健康支援の推進については、リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性と生殖に関する健康と権利）の視点をふまえながら、推進します。</p>